京都特派員

今回の大葬に付本社は謹んで其御當日並に前後の模様を報道せん爲め社員堀井卯之助、宮本芳之助の兩氏及び畫工一名を京都に特派し電報に通信に繪畫に詳細の實況を悉し以て我讀者をして親しく大典を拜觀するの思ひあらしむ可し

福翁百話（七十九）

福澤諭吉

無學の不幸

此頃友人の話に或る大家の夫人年齢もまだ初老前後なりしが何か病に罹りて歿したりと云ふ其病中の様子を聞くに或日奥様には俄の不例とて一家の驚き一方ならず早速出入の醫師へ使を馳せて來診取敢へず草根木皮の藥劑を調進したるは以て其古流醫たるを知る可し夫れより醫師は晝夜詰切りにて代診の弟子は看護婦の用を辨じ師弟協力頻りに服藥を進むる中に鍼醫も來り按摩も來り諸家親類の勸に從て靈藥を服し親類の周旋に由りて加持祈禱を執行する等人事のあらん限りに手を盡したれ共病症は次第に進んで更に快方の色なし是に於てか或人の發意に斯くまでにして藥の效もなく神佛の利益も現はれずとあれば今は是非に及ばず、せめては彼の西洋流の醫師に診察させては如何との評議一決し然らば其西洋醫は誰れにせん何某は有名なれども其家の方位何の方に當りて塞がり又何某は方位に差支なけれども今明日は之を招待するに日柄宜しからずと云々にて一兩日を空うし念に念を入れて其學醫を聘し來りて之を玄關に導き入るれば家人應接して一通りの容體を陳べ進んで次の間に入れば按摩の出迎ひ鍼醫の應接みな大同小異の病症を語り尚ほ奥の病室に進入して始めて面會は執匕の古流醫なれども其病症に關して喋々辯ずる所は少しも解す可らず醫師尚ほ且つ然り況んや家族の人に於てをや枕邊に看護する主人を始め二三の子女共に最初より其病症の何たるを知らざれば容體を語るに取留めたる順序もなく唯茫然として患者の苦痛を眺め首を垂れて竊に涙を拂ふものゝ如し斯くて其學醫は病家の門に入りてより凡そ半時間餘を費し漸く患者に直接して診察を遂げしに全く内部何臟の急性炎症にして發病以來の療法は毫も對症の効なきのみか徒らに病勢を助けたるの事實さへ分明にして最早や術の施す可きものなく兩三日を經て遂に逝れたりと云ふ巨萬の財産を擁有して何一つの不自由なく家に居たる者が一朝の病に襲はれて主人は偕老の妻に別れ子女は最愛の母を喪ひ實に驚天動地一家具の暗の不幸に陥りたるは[illegible]人身生理の思想なく此[illegible]に醫を撰ぶを知らざりしが故のみ若しも此[illegible]人にして[illegible]入れられ學醫流の治療を受けたらんには假令ひ其取扱は[illegible]も[illegible]は着手の初より正當の方針を誤らず[illegible]を免かれ[illegible]を容れず[illegible]不幸[illegible]の[illegible]して其死生の一段に至れば[illegible]と云ふ[illegible]天の不幸は[illegible]に歸する可し

社説

罪囚の赦免

大喪に付き罪囚の大赦減等の議はいよ〳〵決して差當り赦免の典に預るもの凡そ一萬人餘もある可しと云ふ大赦七萬の罪囚中一萬人の解放とは非常の特典にして獄窓の暗黒裡に呻吟して前途覊束なく生活したるものが一朝思掛なく自由の身と爲るみとなれば當人等の喜は想像の限りに非ず恩典の難有さに感泣して自から改過遷善の實を呈するみとならん畢竟大赦の精神も之に外ならざれども社會の下流には無知無識の悪漢輩少なからず現に新聞紙を見れば昨今國喪の期に際して國民一般只管謹慎中にも拘はらず或は物を盗み人を傷け甚だしきは醉亂所生を殺すの悪漢さへなきに非ず今度赦免の罪囚は何れも罪を犯したるものにして無知輩に相違なければ解放後萬一の心得違なきを期す可らず或は非常の恩典に感じて眞實心の底より改悟するも其輩が遂に社會に出でゝ相當の生業に就くは實際甚だ難儀にして多數の中には生活の必要より止むを得ず再び罪に陥るものなしとも云ふ可らず何れにしても罪は即ち罪にして一般社會の迷惑は此上ある可らず固より恕す可らずと雖も斯くては折角の大赦も其効を少なくして本來の精神に背くみとなれば何とか始末して特典を空うせざるの工風なかる可らず我輩は其工風に就て殆んど説なしと雖も其事を委歸したる當局者に於ては自から責任の地位に在るみとなればよく〳〵其始末を考へて實際に大赦の精神を無にせざらんみと敢て希望に堪へざるなり

窮民の救恤

大赦の特典既に罪囚に及んで終身暗黒裡の生活を覺悟したる輩が再び天日を見るの期に逢ふ非常の恩惠と云ふ可し況して普通の窮民にして恰も無告に苦しむもの〻如き自から救恤の澤に浴するみとならん此事に就ては我輩の曾て述べたる如く此際に慈善の擧を行はる〻みと肝要なる可し慈善の擧には一般の窮民を救恤すると永久に慈惠的事業の基礎を立つるとの二種ありて何れも差支なけれども一般の救恤は其範圍甚だ廣くして實際に行渡らしむるみと容易ならず寧ろ永久に恩惠を遺すの事業みそ適當ならんかなれども是れは今回の停止に當り急ぐ可き事柄に非ず眼前に憐れむ可きは今回の停止に際し業を休み謹慎を表したる職人社會一流の身の上にして彼等の中には實際の窮民多きを占めて十數日間の休業に衣服を典し器も賣り米も食ひ盡し其實飢寒に迫まりて難儀したるものありと云ふ我輩の救恤を希望したる所以なり或は救恤の手段に就き一個の職人として鑑札を所有するものは其數も明白なれども附屬の輩に至りては容易に知る可らず區劃に困難なりと云はんなれども彼等の仲間には自から組合ありて夫れ〳〵聯絡もあるみとなれば其組々に由て取調べたらば之を知るに難からざる可し既に府下の職人の如きは困難を訴へて營業税の免除を出願したれども法規に明文なしとて却けられたりと云ふ府下の窮状察す可し若しも救恤の沙汰延引に於ては餓死にも窮まるものゝ結果、或は自然に罪人を生ずる事なしとも云ふ可らず決して停止の本意に非ざる可ければ實行の一日も早からんことを希望する者なり

○英照皇太后陛下の御懿徳

皇太后陛下御登遐ましまして春は空しく立返り上林の花は開くとも隠れさせ給ひたる玉容は再び仰ぎまつるべき期もなし伏して御生前の御懿德を慕ひまゐらするも亦已むを得ざる臣民の誠なり御事蹟の數々は素より記し盡すべくもあらずわけていと畏きは陛下が先帝に後れさせ給ひぬる後の御心遣ひなり先帝崩御の當時精進潔齋の御事は更にもいはず斯りしより陛下の御誕辰に當らせ給ふ毎に陛下には皇族の方々を始め大臣以下百官の拜賀を受けさせ給ひ内膳職より奉る御料理をも下し賜はりけれども御内殿にては絶えて御祝ひの御式をだに擧げ給はず曾て平常と異りたる節もなく過させ給ひぬ其御内意を承はるに先帝崩御の後は頓て此世に亡かるべき御身なり今更に御誕生日など祝ふべきみとにもあらず唯皇太后として國の御母となり給ひぬるに公の御儀式を重じさせ給ひて臣下の拜賀を受けみそし給へ私の御祝事など努々しう物して御身の程を忘れさせ給ふべきに非ずとの大御心なりとぞ申す、實に畏しや是れ偏へに御心に墨染の御衣を着させ給ひけるにやあらん御孝徳の程は曾ても記し奉れる如く御嗜深かりける御歌の道をも先帝崩御の後ははたと打棄て給ひぬるにも見え奉るなり左れば平生深く佛に歸依し給ひ御内殿に御佛壇を取設けさせて先帝の御冥福を禱らせ給ふの外御餘念とてはあらせられず御暇あれば女紅の事を第一とせさせ給ひ青山御所内に繭所、養蠶場さへ造らせられ女官等を督して養蠶、紡績、織組、裁縫を勵ませ給ふみとは世人の夙に熟承する所なるべし殊に陛下が女紅の事萬端に御精通あらせ給ひ其音聽辨雄略ふに御熱心なる中にも曾て一日先帝の御事を忘れ給はざる御一事みそあれ卉は陛下には先帝の御遺身とて御衣數多御秘藏あらせ給ふをば折々取出しては躬親から其の經緯を引解かせ給ひ一々之を結び又續ぎて新に織り成され給ひたるをば天皇陛下に奉り皇后陛下に贈らせられ或は泉涌寺靈明殿にて先帝の御祭日に用ふる尊牌前香爐の御打敷を織らせ給ひて之を同寺に納めさせ給ひしとなん陛下崩御の日、先帝の御衣より得させ給ひたる絲の絢は御手箱に多く藏り居たりとぞ承はるさへいとゞ感泣の外ぞなき

○御葬送御列（つゞき）

京都に於て御葬送當日御列

[illegible]